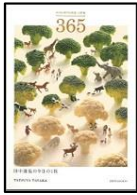


今月の PICK UP

『MINIATURE LIFE 365 田中達也の今日の1枚』

田中 達也／著 小学館 748円



ミニチュア写真家・見立て作家の田中達也さんは、2011年4月20日から毎日、身の回りにある物をミニチュアの視点で別の物に見立てた作品を発表し続けてきました。本書は、その膨大な作品の中から「今日の1枚」を365日分厳選したものです。櫛を半月に見立てて「下弦のくし」、クロワッサンを山に見立てて「クロワッサ山脈」など、作品のみならずタイトルにも洒落っ氣たっぷりです。はじめてから1ページずつ見ていくのもいいですが、その時の気分でパッと開いて出たページを眺めたり、自分や誰かの誕生日のページを探したりしても楽しい1冊です。

『マジカル博物館ツアー』 パトリック・ボー／著 藤村 奈緒美／訳 神奈川 夏子／訳
日経ナショナルジオグラフィック 069円

司書の
おすすめ

本書には、世界中の数ある博物館の中から、ちょっと変わった、いわゆるニッチな博物館が紹介されています。例えば、髪の毛博物館（トルコ）や失恋博物館（クロアチア）、犯罪科学コレクション（フランス）など、一体どんな？ 何故それが？ と想像が膨らみます。また、写真も豊富でまるでその場にいるような臨場感を味わえます。日本からも4館紹介されています。



『ドイツ人の時間の使い方』 松居 温子／著 SBクリエイティブ 159円



完璧を追う日本人の勤勉さは世界的な価値を生む強みですが、幸福度を上げるなら「自分軸」の時間も大切です。本書は9割捨てるドイツ流の習慣を紹介しています。無駄を徹底して手放し、少数の重要なことに集中して成果と自由を手に入れる思考が学べます。「他人軸」の忙しさを見直し、心の持ち方や行動を少し変えるだけで、毎日の暮らしが少し軽やかになるかもしれません。

『宝石のこえ』 野沢 きみ／著 講談社 913.6円

数年前に地球にやってきた宇宙人は、地球の人間の声を聞いて宝石をぼろりと零しました。やがて宇宙人に声を聞かせる店で働くことを担保にした奨学金制度ができ、主人公はその制度を利用して店で働くことになります。



突飛な設定とは裏腹に淡々とした文章で語られる主人公の過去と現在。柔らかくでありながらざらついた手触りの毛布に包まれているような不思議な感覚がありつつ、さらさらと流れるような語り口は心地よさを感じます。



『古代文字を解読していたら、研究に取り憑かれた話』

大山 祐亮・大城 道則・青木 真兵／著 ポプラ社 801.1円



古代エジプトのヒエログリフや、メソポタミア文明の楔形文字などを古代文字と言います。この本では、専門が言語学、エジプト考古学、古代地中海史と様々な3人の研究者が、古代文字と出会ったそれぞれの体験や研究にまつわるエピソードを語ります。彼らの共通の古代文字の勉強法は、手書きでノートを作ること。紹介されている筆記具やノートには個々人のこだわりが感じられます。